

新たな広聴の仕組み実践プロジェクト第5回検討会

平成19年12月17日 19:00 から 21:00

参加者：浦田（特定非営利活動法人いせコンビニネット）、中盛（W.T.Aまちづくりセンター）、岩脇（津市市民活動センター）、辻（広聴広報室）、川村、大山（サポート委員）、松野、明石（NPO室）

12月8日の実験事業（知事と語ろう「本音でトーク」）のふりかえりワークショップ

【実験事業の良かった点】

- ・投票のしくみによるテーマの選定はうまく機能した。
- ・テーマから外れた発言がしにくい雰囲気となり、集中した議論ができた。
- ・発言時間などのルールが徹底できた。
- ・運営の秩序を守るという課題については、実験事業で成果が出た。

【実験事業の悪かった点】

- ・BGMを流したが、民間らしさが出ていなかった。
- ・NPOが議論の中に入っていくなど、もっと民間らしくてもよかった。
- ・NPOがコンサルティングだけして、県が実施してもよい内容だった。
- ・投票は、事前にわかっていると仲間を連れてくるので機能しなくなる。
- ・民間が運営するという広報が弱かったのではないか。

【その他「本音でトーク」に対する意見】

- ・時間が限られた中で、個別の問題の話をするのは時間がもったいない。
- ・事前意見を前段階で検討するような機会が必要ではないか。
- ・知事ならではの話が出ると意味があるが、部長でも同じ回答ができるものもある。
- ・知事は自分の考え方を伝えたいし、県民は自分のことを話したいので、ミスマッチが起こる。

【広聴の仕組み全体に対する意見】

- ・広聴のしくみがたくさんあるが、メディア毎にシンプルな仕組みにしたら、県民にわかりやすいのではないか。
- ・県民満足度をどこで図るのか。そのときの参加者が満足すればいいのか。
- ・広聴、広報には次の2種類があると思うが、議論が混在している。
 - 首長の口と耳の代わりになるもの。
 - 政策側の知りたい広聴と政策を生かす広報。
- ・県が政策的な意見を聞くのは「百人委員会」で、知事に県民の意見を伝えるのが「本音でトーク」ということか。
- ・「本音でトーク」の中で話される意見も次の2種類がある。
 - 地域性のあるもので生活実感を伝える意見。

全県的な意見。

- ・全県的な意見には、政策的なことを期待してしまう。
- ・政策課題は百人委員会でやればいいのか。

【民間らしい広聴のしくみとは】

- ・本来、広聴のしくみは、民間の視点で行わないといけない。
- ・「本音でトーク」の事例だけで話を詰めていくと想定内の議論しかできない。
- ・県の「本音でトーク」の形は、中間支援のミッションとは違う。
- ・NPOの機能を発揮するには、NPOが県民の声を集めて知事と呼ぶ形がいい。
- ・本音でトークの枠組みでやるならNPOらしさはそんなんに出せない。
- ・今回は募集も済んでいて場所も決まっていたので、工夫するにも限界があった。

今後の進め方について

- ・公募委員に参加してもらう場合、こういった役割を求めるのか。
- ・情報量が同じでないと同じレベルの話ができない。
- ・企画室は実験事業にも参加しているので、今後の話し合いには出てもらいたい。
- ・公募委員の参加より、アドバイザーにアドバイスを求めた方がよいのではないか。
- ・アドバイザーに検討会に出席してもらうのが難しければ、出向いて意見を聞く。
- ・複数のアドバイザーに意見を聞くとよい。

今後の日程

- ・1月23日(水) 19:00~21:00
- ・2月19日(火) 19:00~21:00
- ・3月11日(火) 19:00~21:00